

B C G 予 防 接 種

B C Gは、結核の予防のためにおこなう予防接種です。

結核は昔より少なくなったとはいえ、まだまだ油断のできない感染症です。とくに乳幼児がかかるととても重症になることがあります。B C Gには重症化を予防する効果があります。

生後5か月になったら接種を受けるようにして下さい。



予防接種の注意・お願ひ

予防接種を安心して受けるために、いくつかのことを心がけてください。

○受ける予防接種について、病気のことやワクチンの効果・副反応などについて、あらかじめ知っていてほしいと思います。市町村からの文書や、育児書（雑誌）なども参考にしてください。分からぬことなどがありましたら、会場の職員や医師にたずねてください。

○健康状態の良い時に受けましょう。心配なときは無理せずに延期したり、医師に相談してください。

○前日は入浴して、体を清潔に。

○予診票は、良く読んで、きちんと記入しましょう。

○母子手帳も忘れずに。（個別接種では、念のために保険証も）

○接種の会場で、体温を測り、記入します。

○予期できない重篤な副反応が、注射のあと15～30分以内におきることがあります。すぐに帰らず、しばらく会場で様子を見てください。

○接種の当日は、入浴をふくめていつもと同じ生活でいいのですが、激しい運動はさけてください。



日本では結核は以前より減少してきていますが、それでも毎年3万人近くの新しい患者さんがでています。大人から子どもへの感染も少なくありません。

特に、赤ちゃんはお母さんからの移行免疫がありませんので、大人や老人からかかる心配があります。また、乳幼児は抵抗力が弱いため、もしかかってしまうと、重症な全身性の結核になったり、髄膜炎をおこしたりすることもあります。

BCGは結核を予防するために使われているワクチンですが、効果の点では、やや弱く、確実な予防はできないのではないことをされていますが、結核にかかりにくくしてくれたり、かかっても軽くすませる効果は確認されています。

BCG予防接種

予防接種法による定期接種：

生後1歳未満

(標準は生後5か月～8か月末満)

予防接種を受けたとの注意

反応が数日で出てきたら受診を！



BCG接種の針痕は、普通は接種してから10日ほどたってから見えるようになります。しかし、ごくまれに接種から数日以内に急激に変化することがあります（炎症、化膿など）。「コッホ現象」と呼ばれるもので、すでに結核菌に対する免疫を持っている可能性があります。この変化に気づいたら2～3日以内に必ず接種医を受診して下さい。（必ずしも結核にかかっているという意味ではありませんので、救急外来を受診するなどの緊急性はありません。）

- BCGワクチンは、弱毒化してある注射生ワクチンです。
- 次に注射生ワクチンを受ける場合は4週間（中27日）以上あけて受けてください。その他のワクチンは制限はありません。※

BCGワクチン（結核予防）

- ①今日は激しい運動は避けてください。**入浴はかまいません。**
- ②腕に針のあとを18個つけ、そこにBCG菌をうえつけました。針のあとは1、2日で見えなくなりますが、10日すると、またはつきりしてきます。そして、そこが**赤くなったり、ウミをもったようになる**ことがあります。2、3か月のうちには軽いあとが残つて終わります。
- ③うんだようになったところがかゆいことがあります。強くこするないようにしてください。普通に清潔にしているだけで自然にあります。（お風呂で軽く洗うのはかまいません。薬や消毒は不要です）
- ④まれに、脇のしたのリンパ節がぐりぐりと腫れてくることがあります。ほとんどはそのままでいいのですが、ずいぶん大きいようだったり、痛がるようだったら、医師に相談してください。